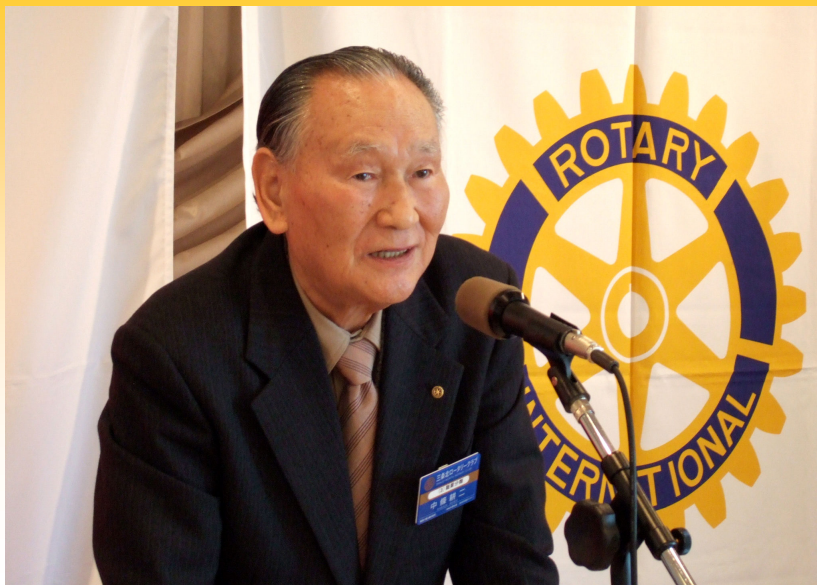




# ロータリー理解月間 パストガバナー 中條耕二会員

## 「三条ロータリークラブ25周年を振り返って！」



**保存版**



ロータリー情報 山中 正委員長

三条北RCは本年、25年の歴史を重ねました。昨年のクリスマス例会に於いて25周年を皆でお祝致しました。本例会に於いて三条北RCの創設にご尽力戴きました中條先輩(パストガバナー)より当時の三条北RC創設の経緯とご苦労されたお話、また今後三条北RCがどうあるべきか？お話を頂き25年の歴史をクラブ会員全員で共有したいと思います。

平成23年1月18日(火)  
ロータリー理解月間 三条北RC例会 卓話

三条北ロータリークラブ  
中條 耕二

国際ロータリーでは毎年1月をロータリー理解月間に指定している。これは対外的な広報活動を通じて、対内的にはロータリーの集会、例会、セミナーを通じて推進するものである。会員に対してロータリーについて知識と理解を一層深めてもらい、同時にロータリアン以外の市民の方々にもロータリーを良く知ってもらうプログラムを実施する月間である。

因みに8月は「会員増強及び拡大月間」9月は「新世代のための月間」10月は「職業奉仕月間」11月は「ロータリー財団月間」12月は「家族月間」1月「ロータリー理解推進月間」2月は「世界理解月間」3月は「識字率向上月間」4月は「ロータリーの雑誌月間」5月はなし、6月は「ロータリー親睦活動月間」です。7月はなし。以上がロータリーの特別月間です。(10月「米山月間」は日本のみです)従って1月はロータリーを良く理解する中で三条北クラブが25周年を迎えるに当たり、今一度北クラブの初代会長の私に山中委員長より新会員が増加し、70名となった当クラブのルーツを語れとのご指示がありましたので私の記憶を辿り述べてみたいと思います。

卓話の前に山中委員長より10項目のご質問がありましたので一つひとつお答えさせていただきます。

### 質問

- ①藤田説量ガバナー時代、なぜ新規クラブを創る必要があったのか。
  - A. 藤田ガバナー誕生の1986-87国際協議会で1つクラブを作ることに約束してきたとの報告。その頃中條、梨本、会長、幹事に予算づけするから作ろうとの至上命令であった。
- ②なぜ三条市内に作るようになったのか。
  - A. 最初は旧栄町に新クラブを作ることになり、15名集まったがあと5名足らず、当時は地域限界があり、三条に作ることになり、又ゼロからのスタートとなり苦労した。

③なぜ名称が三条北クラブになったのか。

A. 既に三条南クラブが存在し南の次は北となり金子左武郎氏（三条RC初代会長）の応援もあり南から北になった。自然の成り行きであった。

④なぜ中條先輩、梨本先輩は伝統ある三条RCから出向して北クラブを作ることになったのか。

A. 中條、梨本ともに三条北クラブに出向しても、戻ってくるように言われたが、非常に短期間(3ヶ月位)に作らせて頂いたのでロータリーの説明やチャーターメンバーと意見交換会や親睦交流会をやっているうちに力が入り戻れなくなった。そして親クラブ、子クラブとして未永く付き合うとの約束があり、2名の送別会があった。

⑤岩井数央先生が特別代表になった理由は

A. 三条北クラブの誕生に盡力されたこともあり三条RC初代会長の金子左武郎氏のご指示であり、例会場も事務局も「さんしん」、さんしんの社員の出向もあり、金子会長さんの力添えによるものであった。

⑥三条北RCが独り立ちした後、中條、梨本は三条RCに戻る事はなかったか。

A. 戻る気は無かった。三条北クラブを良いクラブにしようとの一念であり三条クラブ「親クラブ」に負けないクラブづくり、対抗意識に変わっていった。

⑦チャーターメンバー26名を募る大変さ、その時のご苦労は。

A. あまり苦労せず3ヶ月で26名集まり、若いクラブとして魅力あるクラブとしてスタートしたように思っている。

⑧設立後の会員拡大は順調に推移したのか。

A. お陰様で会員が集まった。当時はまだゆとりがあり、企業数も多くあったように思う。あの時代から半減し今なら大変なことで、良い時期であった。



1989. 7. 18 吉野一郎ガバナー公式訪問 於 ロイヤルホテル

⑨スポンサークラブの三条RC、先輩クラブの三条南RCを規格的に追い越した、三条北RCの要因、良さ、エネルギーとは

A. 若さ、行動力、やる気、仲がよいこと、そしてロータリーの入会の学習会をきちんとやり新会員のロータリーへの理解、情熱の多さの結果ではないか。ロータリーの奉仕活動の協力、活力の賜とっております。

⑩今後、分区内、地区内に於いて三条北クラブの果たす役割とは、期待する事は、何を目指すべきか

A. ロータリーの役員は一年交替制をとっている。7月1日には全世界の役員、日本のロータリーの役員、地区の役員、クラブの役員、リーダーが変わる。

ロータリーの特色が百年間、リーダーのお陰で機能し発展してきた。優れたリーダーの発掘で補給できたが、財団とか米山、ライラにみられるように、一年交替は勿体ない。3年継続が台頭してきた。ロータリーの定款や細則の見直しも必要になってきた。管理能力の限界と指導力についても検討する時と思う。例えば地区に於いては移動事務所から固定事務所に切り換えも視野に入れ、若いリーダーの育成も含め、短期的計画と長期的展望を語り、この欠点を埋めていく必要が出てきたように思う。

ガバナーとパストガバナーの関係、クラブでは会長にパスト会長が経験と革新性を融合し、ロータリーを強く柔軟性を持たせるように変革してきた。



●会長も真剣に拝聴



定款・細則の見直しやEクラブについての検討、女性会員の増強案、課題は多い。  
以上、山中ロータリー情報委員長からの質問に私なりのご報告と考えを述べてみました。

この機会にロータリーの未来と課題を検証し、北クラブの将来について簡単に触れてみたいと思います。  
昨年4月にシカゴの531規定審議会に出席し、日本のロータリーの会員減少、特に人口の減少についてであります。

世界は今や60億から90億をめざして人口が増加し、貧富の差の拡大が進んで居ります。日本のロータリアンに聞いても、識字率の問題や、水不足のこと、貧しい子供たちが年々増加し、人道的問題の継続にピンとこない。一部のクラブは世界中に姉妹クラブをつくり奉仕している所もあるが会員が13万人から9万人を割るような現象が現実になっている。ロータリアンひとり一人の奉仕が世界中に以前ほど評価されていない。

日本は資源の海外依存が高い国、加工立国であり、将来もこの原則が解決されない限り、ロータリアンの活動も低下している現実、国挙げて資源国や発展途上国にロータリーが拡大している。特にインド、ブラジルの発言力が出てきている。

ロータリーはクラブが原点でありクラブ内の親睦や奉仕を優先し、私共もその事を大事にしてきた。しかしロータリーのルールは自然と静かに人口の多い国や発展途上国の熱心な奉仕に日本は圧倒されはじめた現実を規定審議会などで味わってきた。今や日本はロータリーの退会防止と会員増強が大前提となり人口問題が国家の問題となった。法人数も10年前は日本全体120万社、今は100万社、20万社が消えて無くなり、海外移転を始め、空洞化が大きな問題である。

ロータリーだけでなく、TPP環太平洋プロジェクト推進協定の時代となり、関税の撤退、物資自由化が始まり労働者の受け入れ、派遣も変貌をとげつつある。

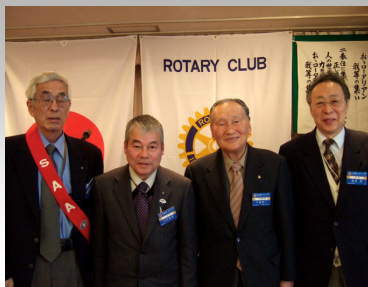
ロータリーの未来は決して甘いもの、夢計画を立てる簡単な時代でなくなった。せめて地区やクラブが結束し、地域に大きく貢献して存在価値を出したいなあという願望だけがひとり歩きしている昨今であるが、ロータリー理解月間はクラブでロータリーの未来を考える月間となり、楽しい明るいクラブ作りを進めたいと思っている。



●時にはユーモアを交え、時には厳しく



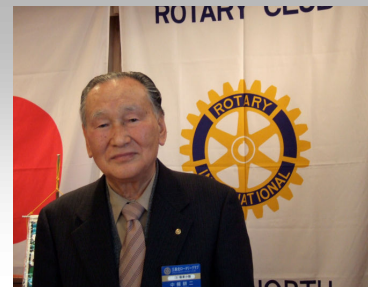
- |       |       |       |       |       |       |              |      |       |       |       |      |      |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|------|-------|-------|-------|------|------|
| 広岡豊作  | 野水文治  | 石丸賢一  | 渋谷健一  | 山崎久吾  | 小林正衛  | 山本福七         | 岩井和男 | 野村竹三郎 |       |       |      |      |
| 杉野奎司  | 高井慶次郎 | 細井増雄  | 吉井俊介  | 土田栄松  | 森川謙三郎 | 中條耕二         | 銅治 倫 | 新田義雄  | 小林英雄  | 熊倉昌平  | 大竹 勲 | 内山裕一 |
| 大谷幸平  | 坂井信次  | 長谷川一雄 | 石村喜一郎 | 渡辺惣吉  | 宮川義一  | 中村一郎         | 野水孝三 | 田巻 実  | 高橋清見  | 相場長一郎 | 加藤峰吉 | 丸山豊造 |
| 平原二三郎 | 近藤一朗  | 松川星吾  | 小出策郎  | 金子左武郎 | 金子六郎  | 白勢誠一<br>ガバナー | 桑原謙一 | 田中佐造  | 五十嵐源吉 | 斉藤権八  |      |      |



●卓話を終えて  
(会長、幹事、副SAAと一緒に)



●松葉の友、斉藤 正会員と  
(お二人は松葉幼稚園～小学校～中学校～高校～ロータリーまで一緒だそうです)



●ロータリー旗を背にして  
(ロータリーと歩んだ半世紀、まだまだ頑張ります)





25年を振り返って チャーターメンバー34名(現在籍数12名)

1 第一回例会

(1986.12.2 三條ロイヤルホテル)  
第一回週報



2 創立総会

(1986.12.14 三條ロイヤルホテル)



第 1 回 例 会 1986. 12. 2

行 事：クラブファンブロー「結成とその役割」

出席者：28名中23名

ウィザラー：日戸平大君、上木大治君、野村竹三郎君、鈴木研賢君、高谷健一君、若井和夫君  
(以上三條 R C)

グ ス ト：なし

先週のミーティング：  
会長挨拶：中野会長  
北クラブに「来た(北)、来た(北)」と武山来て欲しいものです。先ずは最前です。会員同志が楽しく話し合い、愛をもって活動を進めていきましょう。

幹事報告：坂本幹事  
北クラブ第1回例会の幹事報告をさせていただきます。文字通り最初で二度とありません。この事を会員の皆様と共に大切にしたいと思います。毎月の第1回例会終了後は理事、役員会を開催することに致します。

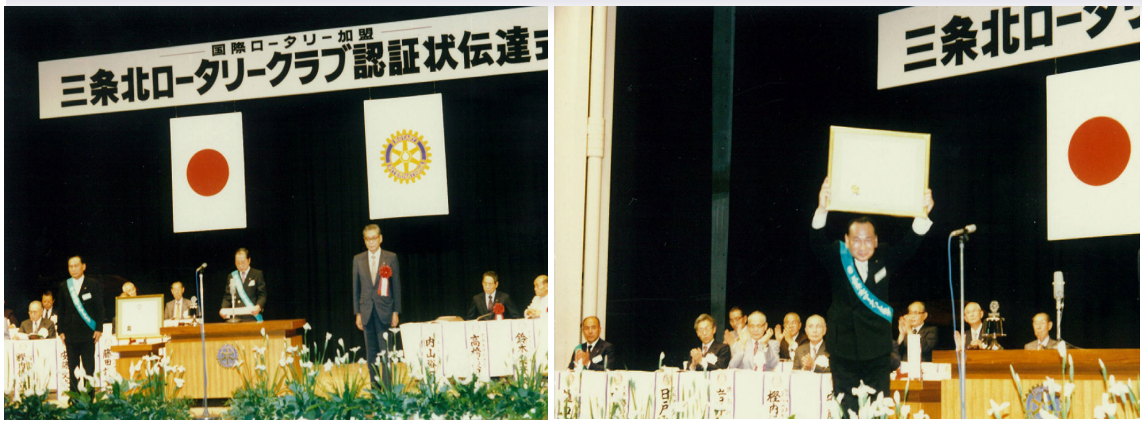
委員会報告：鈴木研賢君よりお祝いのお言葉  
日今坂本幹事さんのお話をお聞きし30年前の三條 R C 創立時、幹事であった時の事を思い出しております。  
会員の皆様、頑張ってください。

若井和夫君よりお祝いのお言葉  
30年前の三條 R C チャーターナイトのお話等、12月14日創立総会の成功をお祈りいたします。

3 藤田説量ガバナーをお迎えして、初めて経験するガバナー公式訪問



4 RI加盟認証 1986. 12. 24を承け、1987. 5. 30 中央公民館にて「認証状伝達式」を挙







## 5 クラブ設立記念事業

青少年健全育成標語塔を燕三条駅前に寄贈設置。  
その後1996年4月10周年記念事業の一つとして補修工事を行い、2007年に水害復興を祈念し、市内4RC合同事業として新たなキャッチコピーの標語塔が完成し現在も三条の玄関口で来条者を迎えております。

## 6 最初の社会奉仕事業

コロニー白岩の里慰問 1989年4月以後毎年青少年のための社会事業を実施。

## 7 鮭稚魚放流

1992.3 1994.3 1995.5 (3回実施)



## 9 ガイアシンフォニー上映会

1997.4



## 8 子供会交流キャンプin下田教育センター

1994.7





10

### 全日本バレー中田久美子 スポーツセミナー

1998.2



### 11 全盲のオルガン奏者 大島 彰 講演会

1999.1 2001(2回実施)

他多数 社会奉仕事業を実施。毎年の事業  
に対してガバナー賞受賞  
1996年・1999年 RI会長賞受賞  
1997年三条市より「社会福祉功労者団体  
として表彰」



### 12 クリーン作戦に参加

三条市が実施するクリーン作戦には毎年参  
加、市内RCの中では北RCの参加人数が多  
いようでした。  
三条市としての実施が終了後も三条ロータ  
リークラブ主催で行われていますが、  
北RCは以前と変わらず参加しています。



### 13 10周年記念式典アトラクション

10周年記念式典懇親会の為に北RC会員に  
より結成された「北鼓隊」は10周年の懇親会  
のフィナーレを飾り、その後、北RC以外の  
メンバーも加わり、現在では和太鼓集団とし  
て立派に活躍されています。

- ・ 創立10～20周年の歴史については20周年記念誌に掲載されていますので、主に10周年までの歴史を振り返ってみました。
- ・ 創立20周年後に入会された方で20周年記念誌をご覧になりたい方は事務局までご一報ください。